

二部地区活性化だより 野上川の風

●発行/
二部地区活性化推進機構
日野農業改良普及センター
溝口町 二部公民館



●二部小学校学校田の田植風景

「幸せのメッセージ」

しあわせ

幸福は、まず心によりも

健康のなかにある。

(G・W・カーチス)

と...

いまここに 児童たちは

二〇〇〇年の歴史をもつ米作りで

家では得難い経験を

この学童農園で体験する

太陽のめぐみと土のめぐみと

そして人々の丹精が

やがて豊かな穂刈を迎え

これを糧に ^{かて} 地産地消を広げる

このことがほんとうの

幸せにつながる

「地産地消」とは、地域で穫れたものを、地域の人々が消費すること。それが自然の摂理に合致した最高の健康法だという。中国の故事「身土不二」にも通じる言葉である。

会報第二号の発刊にあたり

副会長 谷口包夫

昨年四月に二部地区活性化推進機構が発足したところでありますが、その間、会報「活性化だより」第一号でご報告いたしました通り、本会の事業遂行にあたるための組織・部会などを設けまして、各々の部会を中心に、公民館事業であります町民運動会、たたらまつり、などについても逐次一緒に取り組みをしているところであります。

特に、本会報でご報告しております二部地区全集落を対象とした住民意向調査（中学生以上）を実施しましたところ、住民の皆さまには大変な協力とお世話さまになりました、誠にありがとうございました。

おかげ様で、その回収率は八五、三％という高回収率でありました。

今後は、この住民アンケート調査結果を分析し、意見集約並びに協議を重ねまして地域づくりの方向性を定め、本機構の所期の目的であります地域の活性化と発展のための諸課題、諸方策に取り組みでまいらなければなりません。

そして、より豊かで活力のある二部地区の実現を目指したいと思っております。どうか皆さまのご協力とご教示を、心よりお願いを申し上げます。

アンケート調査の結果でみる
二部地区の住民意識

一、アンケートの概要

昨年八月、本推進機構初めての事業として、住民の意向調査を実施しました。二部地区在住の中学生以上、全住民の皆様を対象に、二三日の質問からなるアンケートです。

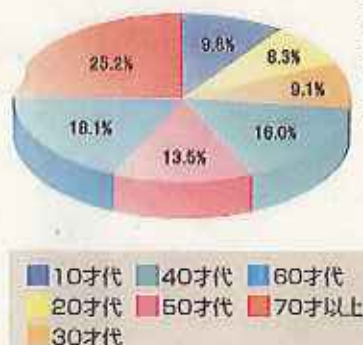
一、三七七人に質問用紙を配布し、一、一七四人から回答を頂きました。

回収率は八五、三％でした。

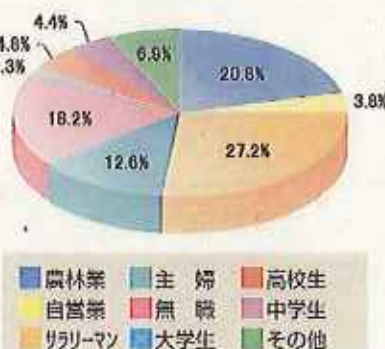
回答者の年齢別、職業別構成は、第1・2図の通り、また性別は、男四七、六％、女五二、四％でした。

このパソコン集計に当たっては、日野農業改良普及センターの皆様、また分析には福岡の安達勇人、福居の藤田常雄ご両氏の協力を頂いたことを、紙面を借りて厚くお礼申し上げます。以下集計結果を踏まえ、住民意識の解析を試みました。

第1図 年齢



第2図 職業



二、強い郷土への愛着心

「問1、2、6、7」の回答は第1表及び第3図の通りですが、二部地区（以下地区と呼ぶ）への愛着心は全体の七割の人が肯定しています。また地区の自然や景色が大好きとの意見も七割弱（六八、四％）の人が賛成しています。そして地区の魅力は「問6」の回答にみられるように、今のままの素朴さであると約半数（四九、四％）の人が認めています。さてこの郷土への強い愛着心はどこから来ているのでしょうか。それを「問7」で地区の好きなどころを問うた答え（二つまでの複数回答）で見ると、多い順に①空気がきれい、②美しい自然、③水がきれい

第3図 問7

二部地区の好きなところはどんなことですか

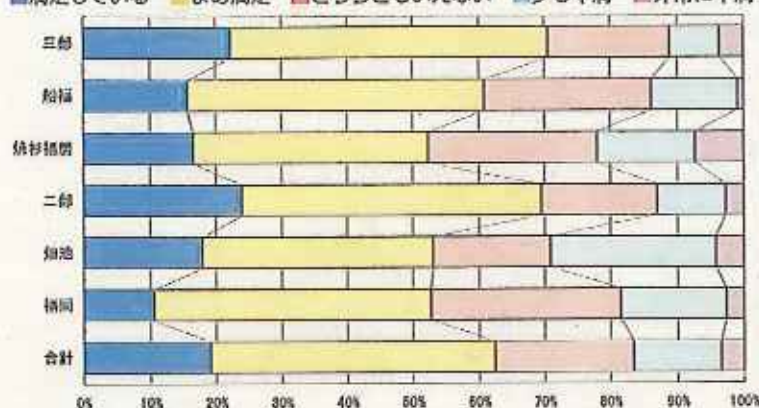


第1表

設問 回答	問1. 二部地区に 愛着がありますか	問2. 二部地区の自然や 景色が好きですか	問6. いまのままの素朴さが 魅力だと思いますか
はい	70.2%	68.4%	49.4%
いいえ	6.4	6.8	19.7
どちらとも いえない	22.7	23.8	28.7
無回答	0.7	1.0	2.2

■満足している ■まあ満足 ■どちらともいえない ■少し不満 ■非常に不満

第4図

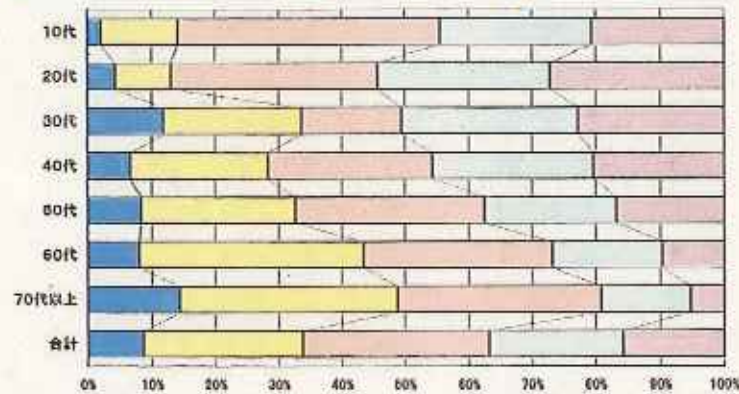


問14(1)
二部の暮らしやすさについて
(住む)

と続き、これに恵まれた環境の四項目を合計した広い意味の自然環境の良さをあげる意見が、全体の3/4を占めています。
以上のことは地区の自慢できることで、今後もこのすぐれた環境の維持保全に努力しなければなりません。

■満足している ■まあ満足 ■どちらともいえない ■少し不満 ■非常に不満

第5図

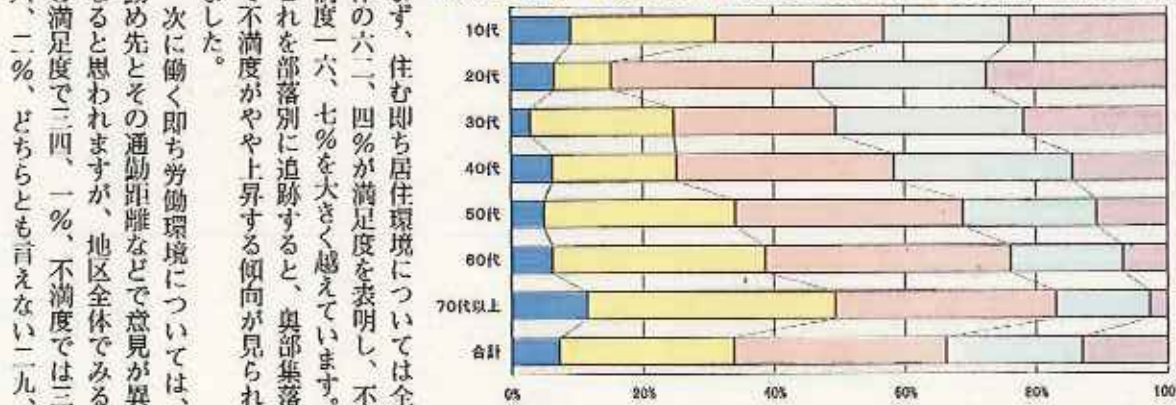


問14(2)
二部の暮らしやすさについて
(働く)

三、二部は居よいか 住みよいか
地区での暮らしを、住む・働く・楽しむの観点から満足か不満かを「問14(1)～(3)」で問うた結果は第4～6図の通りです。この回答を分析するにあたり満足とまあ満足を満足度(%)、不満と少し不満を不満度(%)で表現してみよう。

■満足している ■まあ満足 ■どちらともいえない ■少し不満 ■非常に不満

第6図



問14(3)
二部の暮らしやすさについて
(楽しむ)

まず、住む即ち居住環境については全体の六二、四%が満足度を表明し、不満度一六、七%を大きく越えています。これを部落別に追跡すると、奥部集落で不満度がやや上昇する傾向が見られました。
次に働く即ち労働環境については、勤め先とその通勤距離などで意見が異なると思われるが、地区全体で見ると満足度で三四、一%、不満度では三六、二%、どちらとも言えない一、九%、

六%と概ね三等分の意見に分かれています。当然通勤距離の遠い奥部集落で不満度はやや高く、またこれを年代別に追跡してみると、学生が大多数の一〇代を除き、二〇代、三〇代では不満度が半数を超え、五〇代までは不満度が満足度を上回っています。六〇代以上でこれが逆転しますが、現役ではない年齢なので参考意見だといえます。
要するに労働環境に対する不安と不満は働き盛りの年代ほど強く感じているようです。これは地域的要因の他に現在の不況など経済環境の影響の方が大きいものと想像されます。ともあれ安定した雇用の創出と景気回復が強く望まれるところで。

さてもう一点、暮らしの中で楽しむこと、生きがいにも係わる娯楽環境の評価はどのようになっているのでしょうか。これも全体では労働環境と同様の傾向で、満足度三四、二%、中間三二、四%、不満度三三、三%とほぼ三等分に意見が割れています。地区別、男女別の差は殆どありませんが、未成年の一〇代を除けば、年代別の意見は前掲労働環境の項と全く同傾向でした。即ち若い年代ほど不満度が高く、五〇～六〇代になって満足度が逆転してきます。これは一種の諦めかも知れません。今後豊かで充実した生活をエンジョイできる文化・娯楽・スポーツ等の施設整備も重要な課題と考えられます。

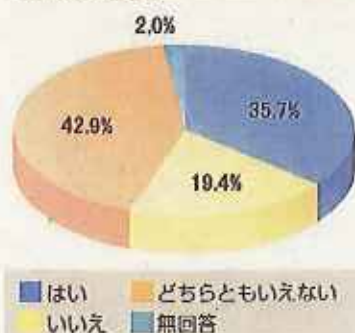


問9
自分はいずれ、二部地区から
出て生活するだろうと思いますか

第7図 問3.
都市の生活にあこがれますか



第9図 問10.
地区外に出た家族に戻ってきて
ほしいですか



即ち地区外に生活の場を求めたいという考えは、一〇代で五六、九%、二〇代で二六、六%と、若い世代ほど地区外移住の願望を持つようです。もちろん一〇〜二〇代の意識は変わりゆく可能性はありますが、年代が進むにつれて、その移住願望は急速に衰えます。

第10図



問11
将来、子孫にも二部地区に住んで
ほしいですか

三〇代で五三、九%、四〇代からは七〇%〜八七%の住民が地区内に永住したいと思っているようです。

また「問11」で、将来子孫にも二部地区に住んでほしいですかの設問に対し、「はい」の回答率を年代別にみると「第10図」の通りです。高齢世代ほどそれを切望していますが、若齢世代ほどクールに考えられているようです。

第11図 問12.
地区外からの移住希望者があれば受け入れたいですか



これらの調査結果を総合して考えることは、若者にとって魅力ある郷土づくりの成否が、地区の将来の盛衰を左右するよう思えます。老人ばかりのゴーストタウンにならぬよう、強力な定住条件の整備が必要です。

「問10」では、地区外に出た家族に戻ってきてほしいですかの問いに三五、七%約1/3の留守家族がそれを望んでいます。（第9図参照）

「問12」の外から移住希望者の受け入れについては五九、四%が賛成しています。（第12図参照）これらUターン、Iターンの戦略もこれからの地区活性化対策の一方策といえるでしょう。

〔註〕
Iターンとは、都会から農村へ移住すること

第2表 問8

二部地区で生活していて将来心配することは何ですか

1位	過疎少子化	16.6%	6位	バス路線の確保	10.0%
2位	年金や介護	15.3%	7位	嫁、婿不足	8.6%
3位	農林業の将来	13.6%	8位	除雪体制の維持	7.3%
4位	後継者の確保	12.6%	9位	教育施設の充実	4.1%
5位	医療体制の整備	10.9%	10位	その他	1.1%

五、地区の生活で心配なこと

「問8」で将来心配することは何か、三つ以内の複数回答の結果を多い順に並べると第二表の通りです。一位、過疎少子化問題、二位、年金や介護、三位、農林業の将来、四位、医療体制の整備、五位、バス路線の確保、が一〇%を越えた心配の項目です。しかしそれ以下の比率の項目も、無視できない重要な心配ごとと言えます。当然これからの行政目標となる課題です。

ところで、一部地区にふさわしい、環境整備など取り組みが望まれる項目を「問17」（複数回答）の結果から検討してみよう。順位は第3

第3表 問17

二部地区にふさわしい、環境整備などのために取り組みたいと思われることは何ですか

1位	下水道の整備	17.0%	6位	河川の清掃	6.1%
2位	上水道の整備	8.9%	7位	老人のいこいの場	5.6%
3位	防犯灯の増設	7.8%	8位	娯楽施設の整備	4.8%
4位	歩道の整備	6.5%	9位	道路網の充実・拡幅	4.4%
5位	工場誘致などの就職の場の確保	6.4%	10位	自然と共生する教育	4.0%

表の通りですが、これで先ず気付くことは、一、二位を合わせた上下水道の整備を1/4の者が要望していることです。道路や河川関連の整備にも関心が高いようです。ともかく上水下水の事業では、その具体化が急がれます。

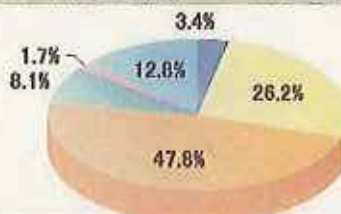
六、地区農業は兼業志向

「問21」で二部地区でのこれからの農業をどう見ているか、六項目の中から一つ選んでももらいました。（第12図参照）

一位は自給農業プラス農外収入拡大の兼業志向が全体の約半数四七、八%を占めました。続いては、農業収入にウエイトを置いた兼業志向が約一四、二六、二%となっており、専業農家志向は三、四%と少ない結果です。

第12図 問21

二部地区でこれからの農業についてどう考えますか



■やり方次第では農業で自立出来るから、積極的に取り組みたい
■農業収入を高め、農業収入と合わせて生活を安定させる
■農業は自給自足程度に止め、農外収入の拡大をはかる
■農業の将来に見切りをつけ、離農する
■現在は非農家だが、農業をやってみよう
■現在は非農家、将来も農業はやらない

しかし非農家から農業への新規参入希望一、七%は少数とはいえ貴重な意見といえましょう。農業リタイア組も八、一%あり将来の地区内職業分類の構成比が変わることになります。

七、多彩な地域活動の動き

地区や集落内での地域づくり活動への参加希望を「問16」の集計でみると、全体の約1/3、三三、二%が参加を望んでいます。関心度を年代別にみると、六〇代が最も高く、これに四〇代、五〇代、三〇代と続きます。若年代の関心度は極めて低く、一〇%程度でした。（第13図）

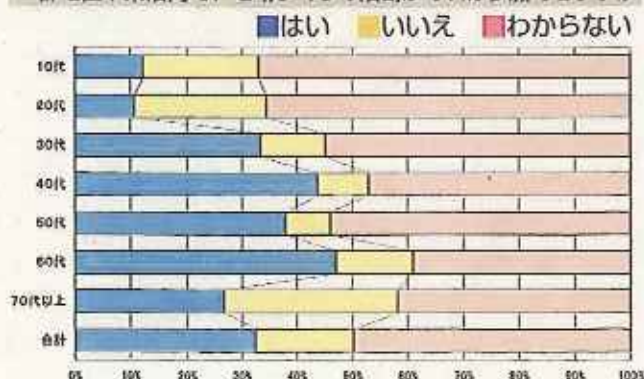
さて地区住民が求める生きがい対策の趣味や同好会への参加希望を「問18」の複数回答を集計し（第14図）

に作図してみました。男女共通して参加希望の多いガーデニング、カラオケ、書道、歴史教室、水画など、また女性では、生け花、手芸、ちぎり絵、草木染めなどで、男性の囲碁も上位にランクされています。

「問19」で問うたスポーツ活動への参加希望は（第16図）の通りです。男女を問わずまた年代を超えて普遍的に支持されているスポーツには、散歩、バドミントン、水泳、グラウンドゴルフなどがあり、男性のゴルフ、女性のダンス等が上位を占めました。これらの多彩なグループ活動は、今後の「じけ起し村づくり活動」や「公民館活動」の中で生かして行かねばなりません。

第13図 問16

二部地区や集落内で、地域づくりの活動があれば参加できますか

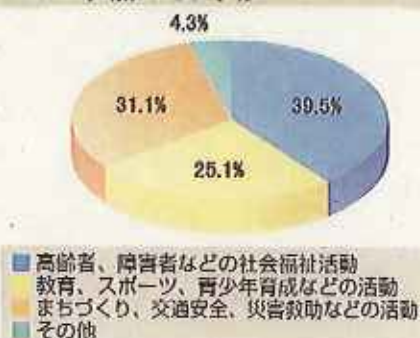


「問22・23」でボランティア活動参加の希望調査(複数回答)及び実際に協力できる仕事を答えていただいた結果は(第16図)と(第4表)の通りです。ボランティア活動では、社会福祉が最も多く、まちづくりや青少年育成などにも関心が寄せられています。また参加協力できる福祉活動については、この四月から開始される介護サービスへの側面協力が見えてくるようです。

八、福祉、ボランティア

活動の一翼を担う

第16図 問22. ボランティア活動に参加するとしたらどれに参加できますか

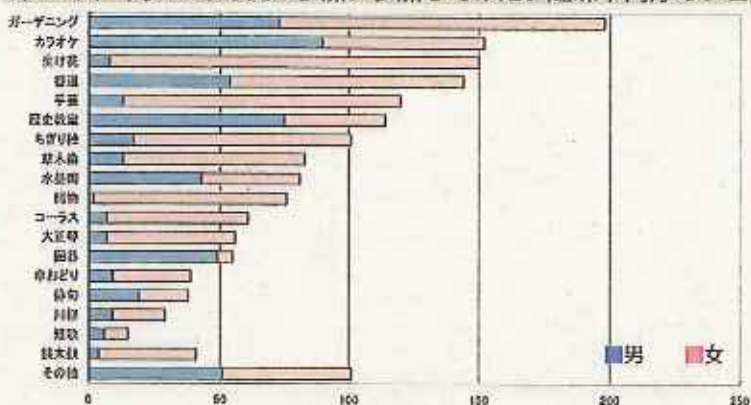


以上アンケート結果の概要をまとめてみました。十分な検討分析ができなかったとは存じますが、大方のご参考に役立てば幸いです。

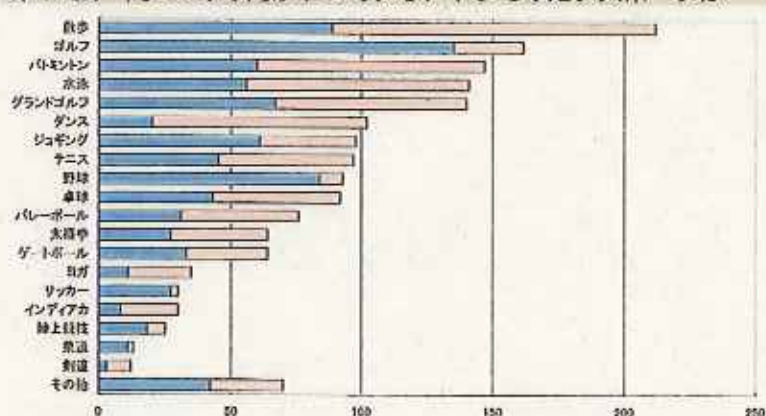
なお「問20」の桶ヶ崎のことにつきましては、事業主と清口町の話し合いが進んでいませんので今暫く公表を延期いたします。また「問15」で伺った、懐かしい遊びや食べ物調査は多数の回答が寄せられましたので後日整理して発表します。住民の皆様のご協力有難うございました。

九、結びにかえて

第14図 問18.あなたが参加、参加してみたい趣味や同好のつどいは



第15図 問19.あなたがやっている、やってみたいスポーツは



第4表 問23.問22の「社会福祉活動に協力してもよい」と答えた方で、実際に自分が協力できることは何ですか

1位	生活用品の買物	13.2%	5位	衣類の洗濯やつくろい	9.3%
2位	住居の掃除・整理	11.4%	6位	相談・話し相手	8.4%
3位	留守番	9.8%	7位	役場などへの連絡	7.9%
4位	食事の世話	9.4%	8位	身のまわりの世話	7.7%

活動日誌メモ

(月日)

平成十一年

八、下旬 会報第二号 住民アンケート

各戸配布

九、中旬 アンケート回収

一〇、二二 役員会(委員研修について)

一〇、二四 町民運動会(二部地区大会)

一〇、二五 二部地区上下水道事業研修会

(環境部会、部落代表者合同)

一〇、三〇 委日視察研修会(関金町)

一、八 健康スポーツ部会講演会(薬の正しい使い方)

二、一四 役員会(アンケート結果検討)

二、一七 合併処理浄化槽事業推進を町長

陳情(会長 部会長)

平成十二年

一、二二 健康スポーツ部会(健康教室につ

いて)

一、二三 総務部会(会報発行について)

一、三〇 会報編集委員会

二、六 講演会(むらさきの現場から)

二、一六 第一六回たたらまつり

二、二三 二部地区山形町青少年育成事業

外視察(愛媛県谷口副会長参加)

三、一 健康スポーツ部会清口町共催健

康教室

二、中旬 会報第二号 刊行配布

「よろしくお願ひします」

川のねこやなどの芽がふくらみ、ワクワクする山菜の季節。春が目の前になりました。二部地区で始まった活性化活動の取り組みもいよいよ2年目となりました。各所で部長を中心に部会活動の具体的な計画を検討中です。地区民全体で白分達の課題として活動していただきたいと期待しています。

日野農業改良普及センター 森田 陽子